



ほかにはない  
アンサーを。

# 2017年3月期 決算説明資料

2017年5月19日  
オリックス銀行

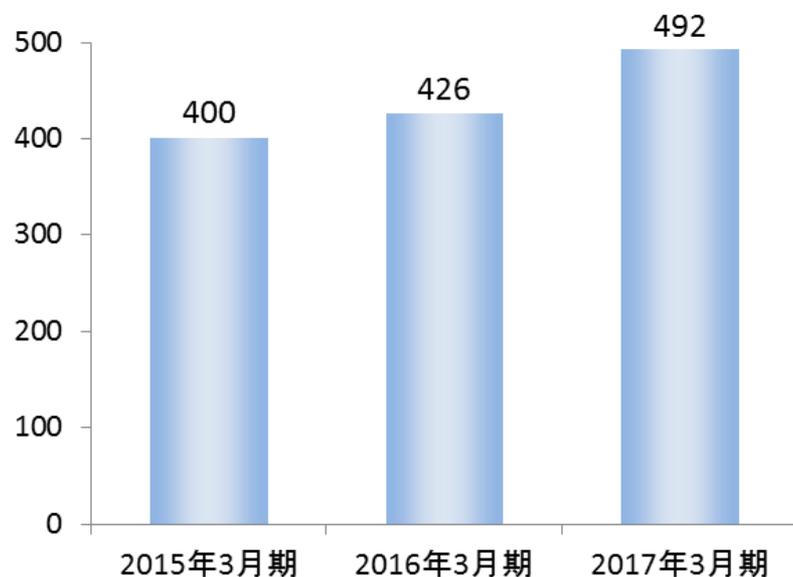
※計数は、単位未満を切り捨てのうえ、  
表示しています。

# 損益の状況

- 経常収益・当期純利益ともに最高益を更新。
- 当期純利益は初めて100億円を突破。前期比44%増となる大幅増益。

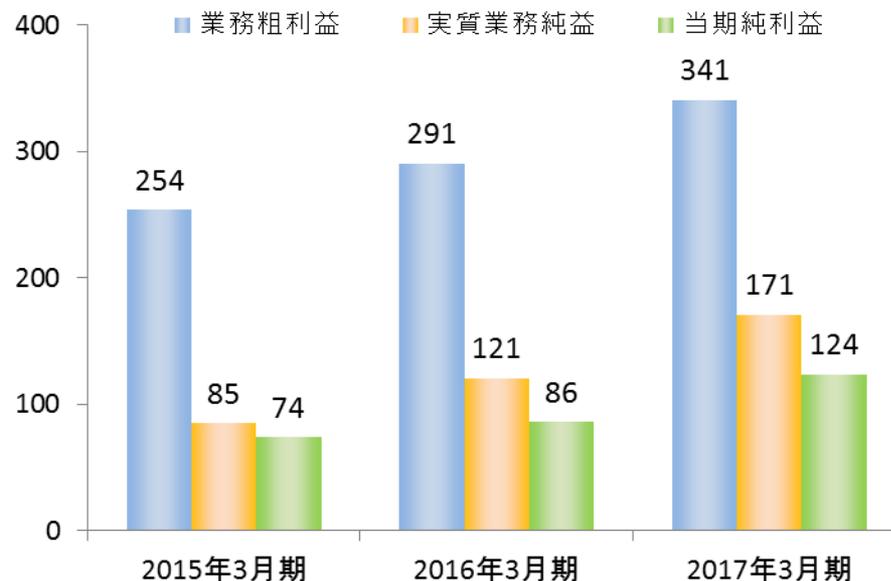
## 経常収益

(単位:億円)



## 業務粗利益・実質業務純益・当期純利益

(単位:億円)

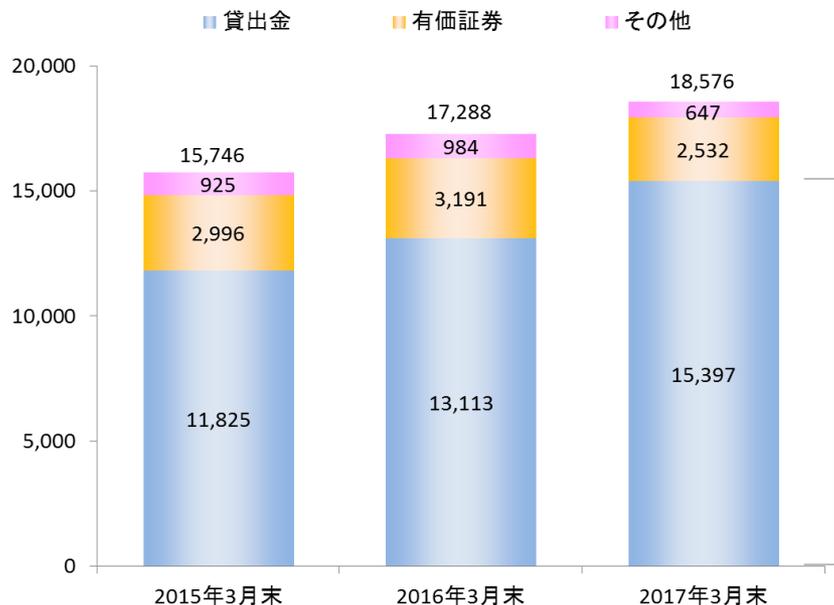


# 貸出金の状況

➤ 主力の住宅ローンを中心に残高を伸ばし、貸出金残高は前期末比17%増。

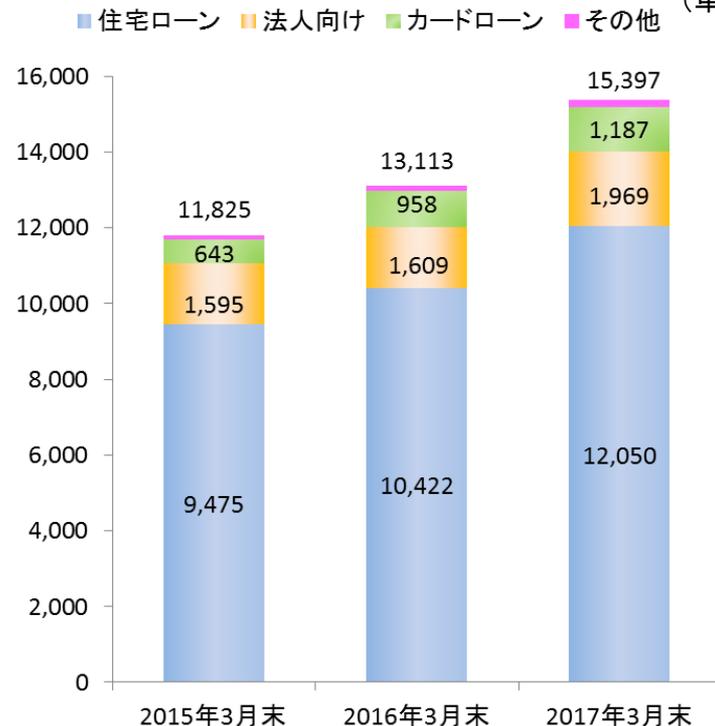
## 運用資産残高

(単位:億円)



## 貸出金残高

(単位:億円)

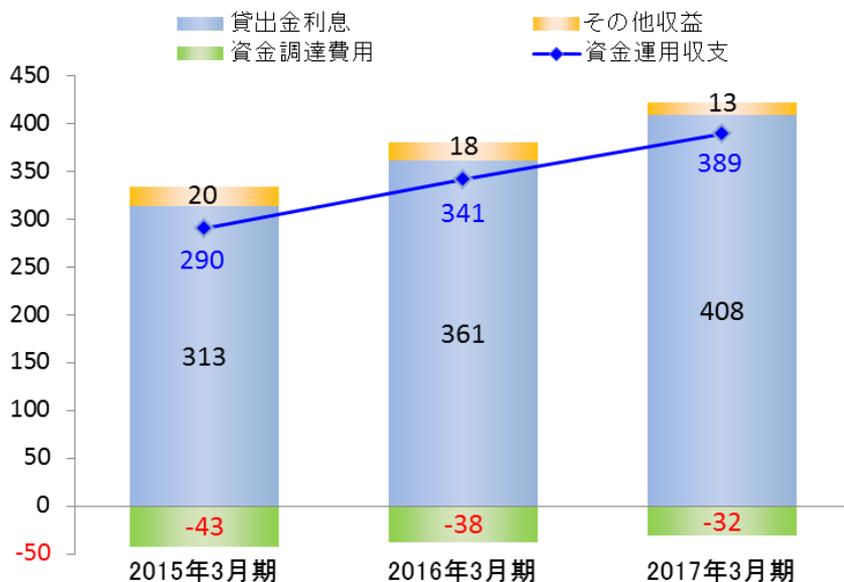


# 資金運用の状況

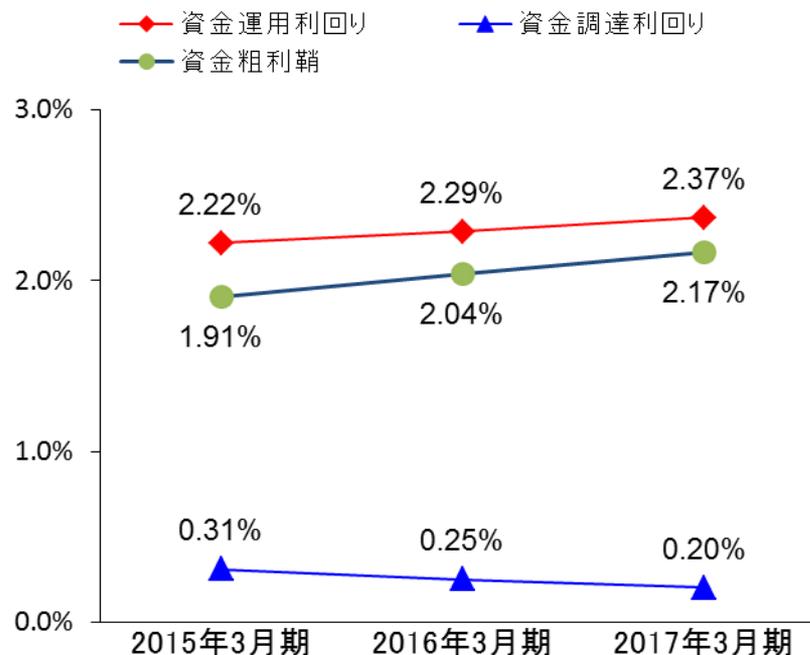
- 貸出金の伸長に伴い、資金運用収支は前期比14%増。
- 金利低下が続く中、資金粗利鞘は前期に比べ0.13ポイント良化。

## 資金運用収支

(単位:億円)



## 資金粗利鞘・利回り



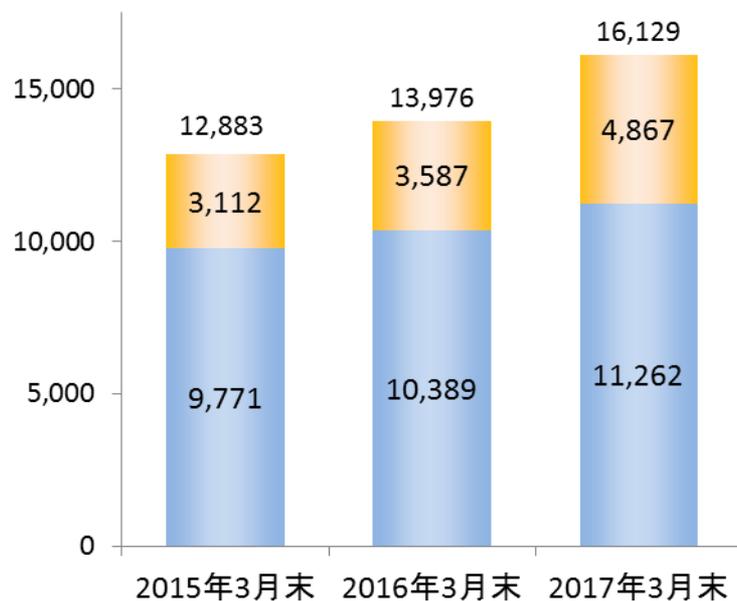
# 預金の状況

- 個人預金・法人預金共に順調に増加。
- 預貸率は高水準を維持し前期末に比べ1.6ポイント増。

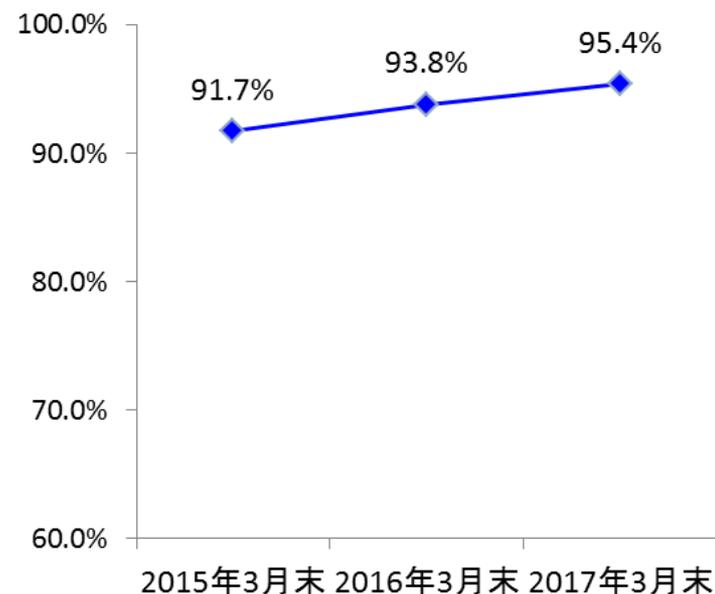
## 預金残高

(単位: 億円)

■ 個人 ■ 法人(NCD含む)



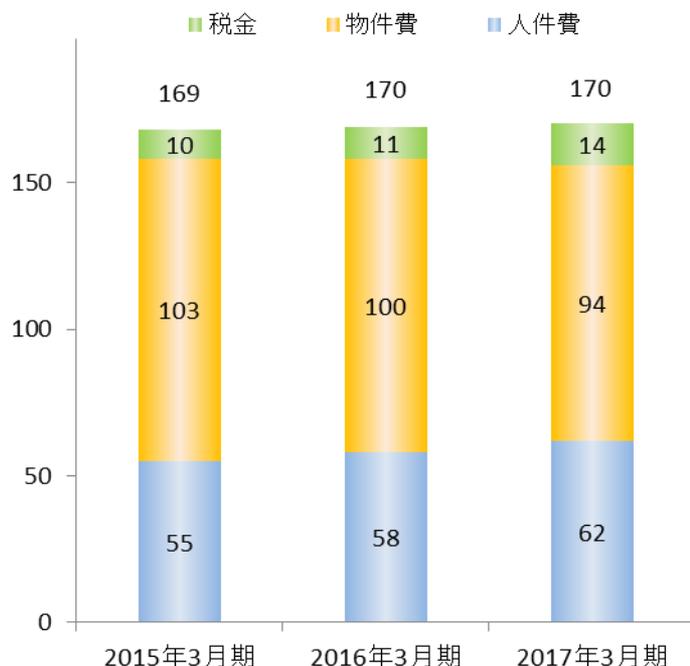
## 預貸率



➤ 業容を拡大しつつ営業経費を抑制、経費率は前期に比べ8.5ポイントの低下。

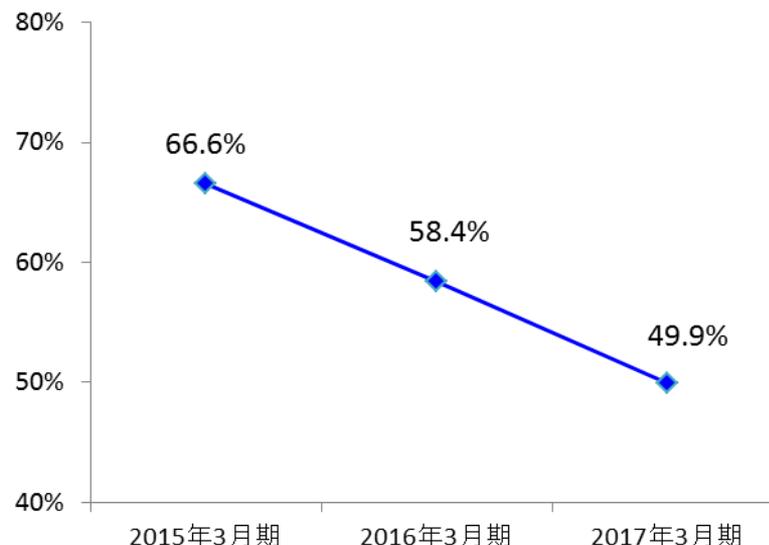
## 営業経費

(単位:億円)



## 経費率

※経費率 = 営業経費 ÷ 業務粗利益



# リスク管理債権(不良債権)の状況

- リスク管理債権残高は微増となったが、同比率は引き続き低減。
- 与信関連費用は引当率の低下等により戻り益を計上。

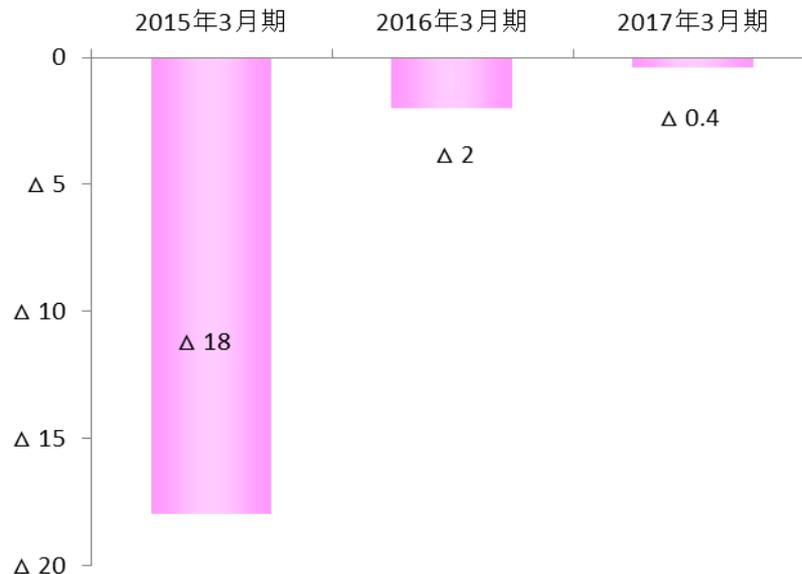
## リスク管理債権残高・同比率

(単位: 億円)



## 与信関連費用

※償却債権取立益を含む / △符号は戻り益 (単位: 億円)



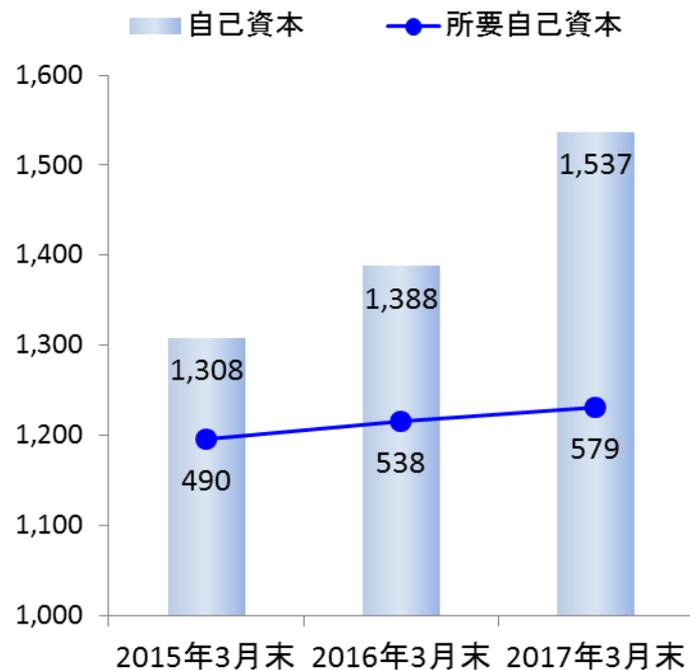
# 自己資本の状況

- 自己資本額は前期末比10%増。自己資本比率は健全な水準で推移。

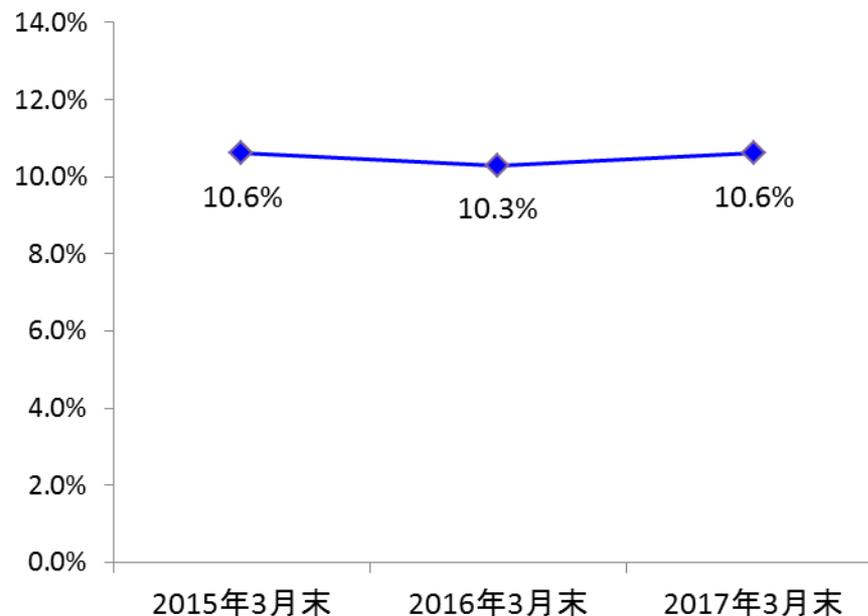
## 自己資本・所要自己資本

※所要自己資本は国内基準行の最低比率4%で算出

(単位: 億円)



## 自己資本比率



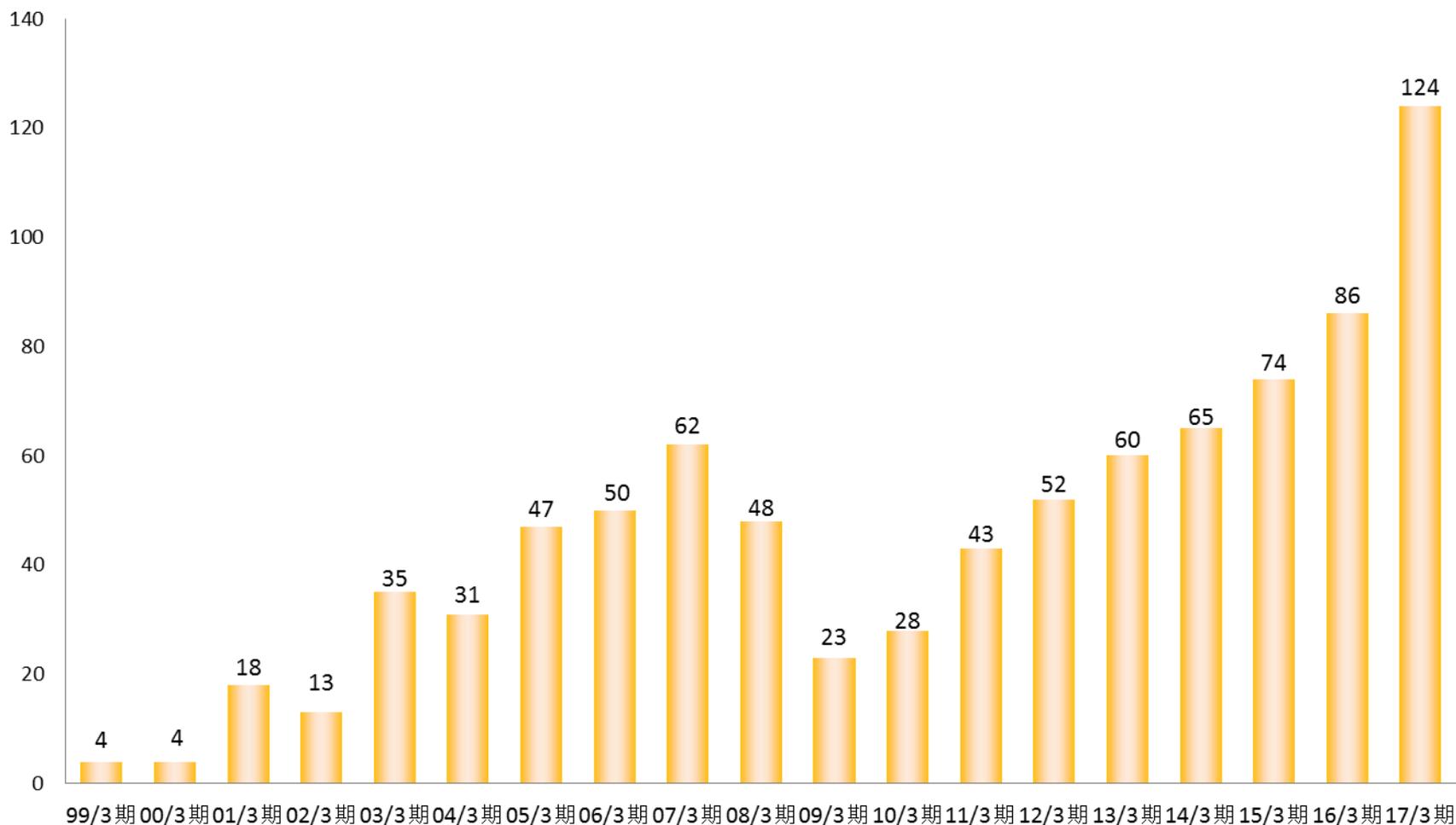
# 補足資料

# 補足資料(1) 当期純利益の推移



(単位:億円)

➤ 8期連続で増益を達成、4期連続で最高益を更新。



## 補足資料(2) リスク管理債権(不良債権)の状況



(単位: 億円)

➤ 適切な与信判断と途上管理により、リスク管理債権は低減かつ低水準を維持。

### リスク管理債権残高

	2015年3月末	2016年3月末	2017年3月末	前期末比
破綻先債権	0	1	1	0
延滞債権	43	33	38	5
3ヵ月以上延滞債権	-	-	0	-
貸出条件緩和債権	9	6	3	△ 2
<b>残高</b>	<b>54</b>	<b>41</b>	<b>43</b>	<b>1</b>

### 金融再生法ベース開示債権残高

	2015年3月末	2016年3月末	2017年3月末	前期末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	11	16	19	3
危険債権	34	19	19	0
要管理債権	9	6	3	△ 2
正常債権	11,869	13,208	15,578	2,369
<b>合計</b>	<b>11,924</b>	<b>13,251</b>	<b>15,621</b>	<b>2,370</b>

※上記は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」に基づいています。

